

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
I	国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	評価	
I-1	放射線の人体への影響、放射線による人体の障害の予防、診断及び治療並びに放射線の医学的利用に関する研究開発等		
I-1-1	放射線の医学的利用のための研究		
I-1-1-1	重粒子線を用いたがん治療研究	評価	
I-1-1-1(1)	重粒子線がん治療の標準化と適応の明確化のための研究		
関連する政策・施策	政策目標 9：科学技術の戦略的重点化 施策目標 9-1：ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進及び倫理的課題等への取組 施策目標 9-5：原子力・核融合分野の研究・開発・利用（紛争解決を含む）の推進	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人放射線医学総合研究所法第十四条第一号 放射線の人体への影響、放射線による人体の障害の予防、診断及び治療並びに放射線の医学的利用に関する研究開発
当該項目の重要度、難易度	（必要に応じて重要度及び難易度について記載）	関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	平成 27 年度行政事業レビューシート番号 0231

2. 主要な経年データ												
① 主な参考指標情報							② 主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）					
	基準値等	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
							予算額（千円）	5,669,816	5,472,466	5,033,993	4,526,068	
							決算額（千円）	—	—	—	—	
							経常費用（千円）	—	—	—	—	
							経常利益（千円）	—	—	—	—	
							行政サービス実施コスト（千円）	—	—	—	—	
							従事人員数	176	170	163	158	

注) 予算額、決算額は支出額を記載。人件費については共通経費分を除き各業務に配賦した後の金額を記載

3. 中長期目標、中長期計画、年度計画、主な評価軸、業務実績等、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価				
年度計画	主な評価軸（評価の視点）、指標等	法人の業務実績等・自己評価		主務大臣による評価
		主な業務実績等	自己評価	
・ 国内の炭素線治療施設との多施設共同臨床試験の実施に向け、症例データ収集のためのデータベースの構築を推進すると共に、重粒子線治療の有用性が高く比較的罹患率の低い対象疾患の症例登録開始	・ 国内の炭素線治療施設との多施設共同臨床試験の実施に向けた具体的な取り組みを行い、症例データ収集のためのデータベースの構築を推進すると共に、重粒子線治療の有用性が高く比			評価

<p>を目指して準備を進める。</p>	<p>較的罹患率の低い対象疾患の症例登録開始を目指して準備を進めたか。</p>			
<p>・炭素線治療の多施設共同前向き臨床研究として頭頸部悪性黒色腫の臨床試験を開始するとともに、仙骨脊索腫などについても準備を進める。高罹患率疾患についての前向き臨床研究の研究計画の検討を開始する。さらに、保険収載申請と関連して骨軟部腫瘍や頭頸部腫瘍の多施設共同後ろ向き観察研究を行う。</p>	<p>・炭素線治療の多施設共同前向き臨床研究として頭頸部悪性黒色腫の臨床試験を開始するとともに、仙骨脊索腫などについても準備を進めたか。高罹患率疾患についての前向き臨床研究の研究計画の検討を開始したか。さらに、保険収載申請と関連して骨軟部腫瘍や頭頸部腫瘍の多施設共同後ろ向き観察研究を行ったか。</p>			
<p>・呼吸同期スキヤニング照射の臨床試験を実施し、平成 27 年度中に臨床試験を終了して、スキヤニング照射の適応拡大を目指す。</p>	<p>・呼吸同期スキヤニング照射の臨床試験を実施し、平成 27 年度中に臨床試験を終了して、スキヤニング照射の適応拡大を目指したか。</p>			
<p>・小型回転ガントリー導入に対応して、回転ガントリーを用いた治療が着実かつ効率的に運用できるよう対象症例の選択などの検討を始める。</p>	<p>・小型回転ガントリー導入に対応して、回転ガントリーを用いた治療が着実かつ効率的に運用できるよう対象症例の選択などの検討を始めたか。</p>			
<p>・重粒子治療診断高度化のために選定したMRI バイオマーカーの短期的評価を確定させ、治療応用を継続することにより長期的評価の基礎データを蓄積する。</p>	<p>・重粒子治療診断高度化のために選定したMRI バイオマーカーの短期的評価を確定させ、治療応用を継続することにより長期的評価の基礎データを蓄積した</p>			

	か。			
・統合診断技術研究ではリンパ節転移評価などにおいて統合診断の優位性を検証する。	・統合診断技術研究ではリンパ節転移評価などにおいて統合診断の優位性を検証したか。			
・画像誘導技術の呼吸同期3次元スキャンニング照射への応用についても準備が進んでおり、呼吸同期スキャンニング照射の臨床試験の中で検証を行い、治療対象の各部位について更なる治療の短期化に向けて検討を進める。	・画像誘導技術の呼吸同期3次元スキャンニング照射への応用についても準備が進んでおり、呼吸同期スキャンニング照射の臨床試験の中で検証を行い、治療対象の各部位について更なる治療の短期化に向けて検討を進めたか。			
・新規放射線治療データベース統計解析システムを完成させる。	・新規放射線治療データベース統計解析システムを完成させたか。			
・外部の研究機関との情報連携を目的として、 1) 主に粒子線治療施設の治療に関する情報の収集・分析システムを実際に稼働させる。	・外部の研究機関との情報連携を目的として、 1) 主に粒子線治療施設の治療に関する情報の収集・分析システムを実際に稼働させたか。			
2) 複数の協力医療機関において、被ばく線量収集ツールを用い、被ばく線量に関する	2) 複数の協力医療機関において、被ばく線量に関する			

<p>情報を収集し診断参考レベルなどを算出する。また、患者個人における複数の医療被ばくに関する情報を追跡し、集約できるシステムの構築を推進する。</p>	<p>する情報を収集し診断参考レベルなどを算出したか。また、患者個人における複数の医療被ばくに関する情報を追跡し、集約できるシステムの構築を推進したか。</p>			
	<p>・治療法自体の費用対効果分析、公的医療保険適用へ向け、治療の安全性、有効性に関する症例データの収集・解析等の取り組みを進めたか。</p>			
	<p>・多施設共同臨床研究が進んでいるが、学会等の関連組織との連携も深めつつ、具体的な取組を進められたか。</p>			

4. その他参考情報

(諸事情の変化等評価に関連して参考となるような情報について記載)